

News Letter

2011・10
No. 3



「授業がおもしろい！と感じる時は？」

2011 年度第 2 回交流会 (しゃべり場) を開催しました。

6 月 30 日水曜日に 2011 年度第 2 回目の「交流会 (しゃべり場)」を開催しました。昨年度から実施し今回で 4 回目をむかえた交流会 (しゃべり場) では学生の専攻・学年間、学生・教職員間の積極的な交流によって学生生活を充実させるために 5・6 人のグループを作り、授業をはじめとする様々なテーマについて意見交換を行っています。第 2 回は文学部、社会学部、経済学部、経営学部・ライフデザイン学部・川越事務部総務課といった多くの学部学生・教職員の方々にご参加いただきました。



当日は 2 部構成で実施し、しゃべり場①では「どんな時に授業をおもしろいと感じるか?」、「授業中のマナーで気になることは?」などといった授業に関するテーマについて学生・教職員同士で意見を交わしました。しゃべり場②では深い議論をするという目的のもと、テーマを絞り「就職活動のために大学はあるのか?」、「大学生のうちにすべきことは?」などの 4 つのテーマを用意しました。「就職活動と大学」のテーマでは、学生から「就職活動のため授業に出られない」「大学は就活のためにあるという状況になっている」という声が出たのに対して、教職員側からは「あきらめずに、自ら学ぶ努力をしてのりきってほしい」「就活は大学生生活の集大成でもある」といった学生とは違った視点からの声もあり、議論が白熱したしゃべり場となりました。

今後も授業をはじめとする学生生活の充実に向けて学生FD活動をすすめて、交流会 (しゃべり場) を開催していく予定です。今回参加していただいた学生・教職員の皆様ありがとうございました。次回も多くの方々の参加をお待ちしております。



CONTENTS

P1: 2011 年度第 2 回交流会 (しゃべり場) を開催しました。

P2: 2011 年度第 2 回交流会 (しゃべり場) での声 など

P3: 先生インタビュー～駅伝リレー～

P4: 活動報告 (「学生FDサミット 2011」参加 など)

第2回交流会(しゃべり場)の声

「しゃべり場って、どんなことを話しているの？」と思われる方も多いかと思います。そこで、第2回交流会(しゃべり場)に参加いただいた学生・教職員からの声をテーマごとに一部抜粋して紹介します。

テーマ：授業が面白いと感じる時はどんな時？

- ・学生：やはり先生の教え方がうまいとき。
→教員：授業が面白くないということは、教員の責任ではないか。
- ・学生：「なるほど」「そうだったのか」など、気づきや発見のたくさんある授業。
- ・学生：グループワークやディスカッションがある授業
→学生：普段、友人とは話さない内容でお互い話し合えるから。また同年代の人が、どう考えているかも知ることができる。また講義とは違った面で成長できる。
- ・学生：でもグループワークやディスカッションがすべてというのは疲れる。
→学生：講義の内容があるから、ディスカッション等ができる。講義とのバランスが大事なのではないか。
- ・学生：簡単すぎると、授業はつまらない。(ある程度難しく、厳しくあってほしい。)
- ・学生：必修の授業ほど、おもしろくあってほしい。



テーマ：就職活動と大学の教育

- ・就活のイメージ
学生：・たくさんの人と、話しができる機会 ・知らなかった職業をすることができる。
・就職後のスキルを身につけることができる。・授業への出席や学業をおろそかにさせる。
- 教職員：・大学生生活の集大成。 ・学生と社会人の考え方の差を学ぶところ。
- ・学生：就職活動のために、学業がおろそかになっていると感じる。
- ・学生：就職活動のついでに、大学にいくということになっている。
- 学生：大学が就活のためにあるという現状はまずいのではないかな。
- ・学生：とにかく授業に出られない！
→職員：授業は予習・復習も含んでいるので、そこで多少補える部分があるのでは。



第3回交流会(しゃべり場)開催のお知らせ



学生FD研究チームでは、2011年度第3回の交流会(しゃべり場)を下記の要領で開催いたします。多くの学生・教職員の皆様の参加を心からお待ちしております。

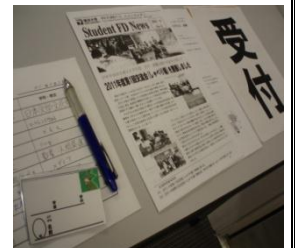
日時：平成23(2011)年11月9日(水) 16:25～17:45

場所：白山キャンパス 2号館3階第1会議室

対象：本学の学生・教職員

※参加費無料、途中入退室自由

詳細はこちら：東洋大学FD活動ホームページ：<http://www.toyo.ac.jp/fd/>
(東洋大学トップページ→大学紹介→FD活動)



メインテーマ

(以下のメインテーマに沿って、更に具体的なテーマを用意します。)

食欲の秋！読書の秋！スポーツの秋！盛り沢山の秋学期の学生生活をいかに充実させていくか

交流会についてのお問い合わせは、学生FD研究チーム E-mail：mlstudentfd@toyo.jp まで

先生インタビュー ～駅伝リレー～



学生FD研究チームではシラバスには載っていない先生の声を聞き、授業に対する興味・関心をより高めていくことを目的に、先生インタビューを行っています。2011年度春学期は、2人の先生にインタビューさせていただきました。

篠崎 信之先生

文学部
教育学科

担当インタビュアー
原田 鈴彦



リ
レ
ー

Q. 教えることを通して先生自身が勉強になることはありますか？

A. 教えるためには知っている知識の再確認、アップデートや整理することが求められるので、とても役立ちます。毎年心理学の本はたくさん出ていますよね。新しい考え方や新しい説明の仕方はいくらかでも出てきます。コメントペーパーを使うことで鋭いと感じたり、授業中シーンとしているけど、ちゃんと理解してくれているんだと思うことはあります。

Q. 日常の中で見つかる授業内容との関連はありますか？

A. 心理的な問題や援助法の知識は、日頃の人間関係で役立つと思います。
ぜひ聞いている学生さんにも自分の友人関係などを振り返ってほしいです。あまり「あの人は病気なのでは」などといってほしくないですが、必要な時は役立ててほしいと思います。

Q. 授業を通して学生に学んでほしいことを教えてください。

A. 先ほどの質問の答えと同じで、心理的な問題や援助の知識をいくつか学んで、今や将来に役立ててくれればなと思います。
授業で学ぶことが役立つかどうかだけではなく、ただ面白いから学ぶ、というのがいいのではないのでしょうか。

小林 正夫先生

社会学部
社会文化システム学科

担当インタビュアー
曽根 健吾



Q. 学生を見て勉強になると思うことはありますか？

A. レポートを見ていると、発想が若いなと感じます。文化やメディアなど、我々にはない発想を見つけてくるのが上手いと思います。
自分自身の考え方が出ていて、そこをどう社会につなげていくかが上手く出ているレポートを読むといいなと思いますし、自分自身の考え方が出ていて、それをうまく社会につなげているレポートを読んでいると楽しんで書いていると感じ、こっちも元気になります。

Q. 授業を通して学生に一番学んでほしいことを教えてください。

A. それぞれの科目で意図していることがあると思います。
科学だと一つの道筋があると思いますが、社会学ではひとつの現象をいくつかの見方で比較するという、色々な発想を見比べることができるということを学んでほしいです。発想に柔軟性や多様性を持たせるところまでいけたらいいですね。

Q. 最後に学生に一言お願いします。

A. 授業もキャンパスも、圧倒的につくる力を持っているのは学生だと思います。
授業の外でも、互いに刺激のある場であると活性化します。
そのためには一人ひとりがその素を持って来なくてははいけません。外からいいものを持ち帰って、他の学生に還元してくれるような場になると活発な環境になりますし、だから今は無駄と思えることもとても大切だと思っています。

その他にも、「先生の学生時代について」「おすすめの本や映画」などについて、聞かせていただきました。

インタビューの全編は、学生FD活動ホームページ：http://www.toyo.ac.jp/fd/student_j.html にて近日公開予定です。

秋学期も、引き続きインタビューを続けていきます。ご協力いただいた先生、お忙しい中どうもありがとうございました。

活動報告

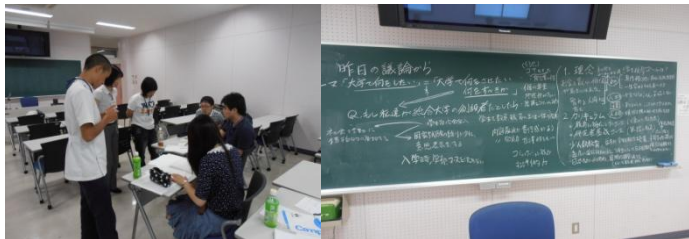
～学生FD研究チームの活動を紹介します～

「学生FDサミット 2011 夏」に参加して

8月27日(土)・28日(日)の2日間、立命館大学で開催された「学生FDサミット 2011 夏」(以下サミット)に学生FD研究チームの学生が参加しました。サミットは、立命館大学の学生FDスタッフが中心となって企画・運営を行い各大学におけるFDへの取り組みについて報告を行い、大学教育・大学生活をよりよくするための議論をし、学生FD活動の輪を広げていくねらいもあります。

1日目午前のオープニングとして、東洋大学、横浜国立大学など6大学による学生FD活動の取り組み発表がありました。私たちは研究チームが本学で取り組んでいる交流会(しゃべり場)の開催、先生インタビューなどの活動や現状の課題について紹介しました。

午後からは事前に選択した3つのテーマ(①どんな授業がいい?②大学で何がしたい?③課外活動って必要?)について、10人程度のグループで議論・グループワークを行い白熱したやりとりが見られました。



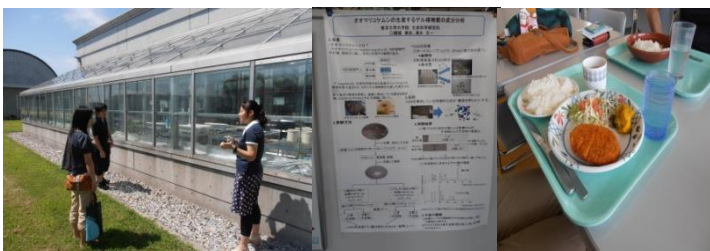
2日目の朝は「あなたの悩み解決したるか」と題した学生FD活動に関して抱えている悩み・質問に、会場全体からアドバイスを頂く新企画が行われました。「どうすれば新スタッフが増えるか?」「学内でFDの知名度をあげるには?」などの悩みが取り上げられ、会場から多くのアドバイスが寄せられていました。午後はテーマごとにコンペションを実施して代表グループを選出した後、各グループ代表が全体で発表を行い活発な質疑応答がありました。最後に、木野茂先生(立命館大学共通教育推進機構教授)より、「授業を良くしたいなら受け方を変えれば授業は変わる」と総括があり幕を閉じました。



学生FDサミットへの参加は、今回で2回目でしたが私たちの活動の意義を考え直すと共に、これからも本学で更に学生FD活動を進めていこうという刺激を大いに受けた2日間でした。学生FD研究チームでは参加して学んだことを励みにし、本学での取り組みに生かしていく予定です。

板倉キャンパスを訪問しました

8月30日に白山キャンパスのメンバーが板倉キャンパスを訪問しました。板倉キャンパスの第一印象は「自然が豊か」です。広大な敷地内には大きな池もあり、自由に周りを散策することができます。私たちが訪問した時には、魚釣りをしている人もいました。また、時々、イタチなどの小動物も見ることができるそうです。



講義棟は横に大きく広々としていて余裕のある構造になっていることが印象的でした。板倉キャンパスの図書館は東洋大学の学

生に限らず、地域住民にも開かれています。理系の学生がグループ研究を行うのに適した机の配置や、スペース作りがなされていました。図書館からの眺めは格別で、勉強で疲れた時などに窓の外を眺めると心とむことができます。先生の研究室は、表に研究している内容についての説明が書かれているパンフレットなどが掲示されています。研究成果がいつでも見られるようになっていることは勉強への意欲を沸き立たせるのではと感じました。新しくできた研究棟も、外観がガラス張りなど造りが開放的で研究室にはそれぞれ自分のスペースがあると聞き文系学生との環境の違いを実感しました。

今回の訪問では、理系の生命科学部がある板倉キャンパスの特色をたくさん見る事ができました。学生が落ち着いて勉強できる、また通いたくなるキャンパスとはどういうものなのかを考える上で、とても参考になったと思います。

東洋大学学生FD研究チーム ニュースレター2011・10 No.3

平成23(2011)年10月12日 編集・発行：東洋大学 学生FD研究チーム 総務・広報グループ

E-mail: mlstudentfd@toyo.jp 学生FD活動ホームページ: http://www.toyo.ac.jp/fd/student_j.html

※ニュースレターへのご意見・ご感想をお待ちしております。E-mail mlstudentfd@toyo.jp まで!